

## 公 民

### 1 全般的事項に関する質疑応答

問1 公民科の各科目について、教育課程の編成上、配慮すべきことは何か。

公民科における各科目の履修については、必修科目である「公共」を履修した後に選択科目である「倫理」及び「政治・経済」を履修することとしており、「倫理」、「政治・経済」では、「公共」で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用して探究できるよう学習指導を工夫することが求められている。この趣旨を踏まえると、「公共」と「倫理」、「政治・経済」を同一年次で並行して履修することは不適切である。

また、「公共」の履修について、原則として入学年次及びその次の年次の2か年のうちとしたのは、選挙権年齢が18歳へと引き下げられ、今後、成年年齢についても18歳へと引き下げられることへの配慮であり、生徒が18歳に達する前に履修する必要がある。

問2 公民科において「主体的・対話的で深い学び」の実現を、どのように図ればよいか。

「主体的・対話的で深い学び」については、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉えることが重要である。これまでの言語活動の充実に引き続き、「社会的な見方・考え方」を働かせることを、より一層重視する観点に立って、社会的事象等の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、現実社会に見られる課題などについて、考察したことや構想したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視することが求められる。

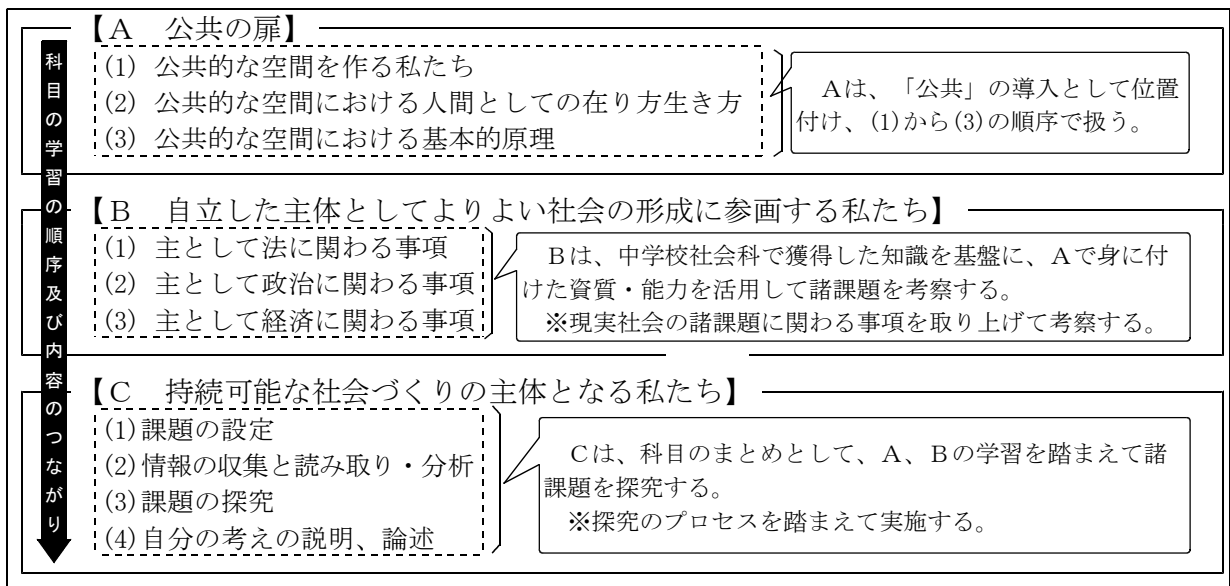
問3 公民科の各科目における指導計画の作成に当たり、配慮すべきことは何か。

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向け、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう必要がある。その際、科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象等の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり、解決したりする活動の充実に図る必要がある。

### 2 公共に関する質疑応答

問1 「公共」の内容構成は、どのようになったのか。

「公共」の内容構成は、次のとおりである。



問2 「公共」において、現実社会の諸課題から「主題」や「問い」を設定し、追究したり探究したりする学習を、どのように展開すればよいか。

「公共」においては、社会との関わりを生徒が実感できる学習とするため、現実社会の諸課題などを学習上の課題とする。倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会に関わる現代の諸課題を取り上げ、主題や問いを設け、考察、構想する。特に、内容のBにおいては、法、政治、経済など、次に示した現実社会の諸課題に関わる主題を設定し、追究したり解決したりする活動に取り組むこととしている。

【「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」において主題を設ける事項や課題】	
主題を設ける事項や課題の例	
法	①法や規範の意義及び役割 ②多様な契約及び消費者の権利と責任 ③司法参加の意義
政治	④政治参加と公正な世論の形成 ⑤地方自治 ⑥国家主権、領土（領海、領空を含む。） ⑦我が国の安全保障と防衛 ⑧国際貢献を含む国際社会における我が国の役割
経済	⑨職業選択 ⑩雇用と労働問題 ⑪財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 ⑫市場経済の機能と限界 ⑬金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）

なお、主題を設ける事項や課題について学習の順序性はなく、生徒の理解しやすさ、学習意欲の喚起などを考慮し、創意工夫した適切な順序で①から⑬の全てを取り上げて指導する。

問3 「公共」において、中学校社会科や高等学校における他教科等との連携について、どのようなことに配慮すればよいか。

中学校社会科及び特別の教科である道徳、高等学校公民科に属する他の科目、地理歴史科、家庭科及び情報科並びに特別活動などとの関連を図るとともに、「公共」の項目相互の関連に留意しながら、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに指導が偏らないようにする必要がある。

【「公共」と各教科等との関連】	
各教科等	内 容
中学校社会科	作業的で具体的な体験を伴う学習の成果を生かすこと。
中学校特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公共」は、高等学校における道徳教育としての人間としての在り方生き方に関する教育において重要な役割を担っている。</li> <li>・「公共」の指導においては、このような中学校の道徳教育における指導を受け継ぐよう、十分関連を図る必要がある。</li> <li>・これらの関連を図る際、生徒の発達の段階を考慮し、指導内容が中学校から高等学校へと一層深化、発展したもとなるよう配慮する必要がある。</li> </ul>
高等学校公民科の 他科目	「公共」の内容と公民科に属する他の科目の内容との間には共通するものが存在するが、必履修科目である「公共」と、選択科目である「倫理」及び「政治・経済」の性格及び目標によってその扱いは異なることから、各科目を担当する教師間の連携を密にする必要がある。
地理歴史科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民科と同様、公民としての資質・能力を育成すると目標に示されていることを十分に踏まえた上で、必履修科目である「地理総合」及び「歴史総合」などの目標における各科目の趣旨に十分配慮する必要がある。</li> <li>・時間的・空間的な認識と時代や地域の変化や特色を背景に現代の社会を学ぶことができるよう工夫する必要がある。</li> </ul>
家庭科	家庭科に属する各科目の内容のうち、生涯の生活設計、自助、共助及び公助の重要性、消費行動における意志決定や契約の重要性、ライフスタイルと環境などに関する部分との関連を図る必要がある。
情報科	情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する技法、情報に関する法規や制度、情報社会における個人の責任、情報モラル、情報化が人や社会に果たす役割と及ぼす影響などに関する部分との関連を図る必要がある。
特別活動	特別活動の目標の一つである「人間としての在り方生き方についての自覚を深め」という部分が「公共」の目標と共通するところであり、特別活動の目標との関連を図る必要がある。
総合的な探究の時間	総合的な探究の時間の目標が「学び方やものの考え方を身に付け」させることや「自己の在り方生き方を考える」ことなど「公共」のねらいと共通する部分があることに留意し、相互関連について配慮する必要がある。

### 3 倫理に関する質疑応答

問1 「倫理」の内容構成は、どのようになったのか。

「倫理」の内容構成は、次のとおりである。

科目の学習の順序	<b>【A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方】</b> (1) 人間としての在り方生き方の自覚 (2) 国際社会に生きる人間としての自覚	Aは、Bの学習に結び付くものであることを踏まえ、生徒がよりよく生きる上での課題を自ら発見し、探究する意欲を喚起する。	A及びBについては、この順序で取り扱うものとし、既習の学習の成果を生かすこと。
	<b>【B 現代の諸課題と倫理】</b> (1) 自然や科学技術に関わる諸課題と倫理 (2) 社会と文化に関わる諸課題と倫理	Bで重視される主体的な学習や課題探究的な学習は「倫理」全体の指導上の視点としても大切である。	

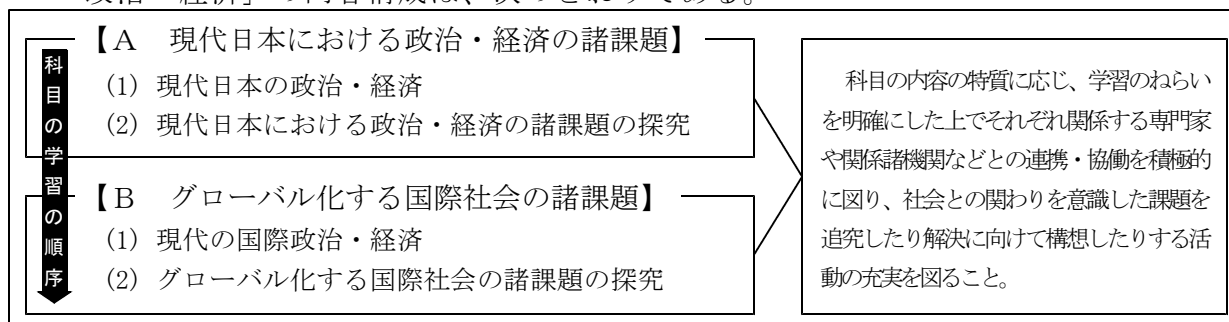
問2 「B 現代の諸課題と倫理」を取り扱う際、どのようなことに留意すればよいか。

この大項目は、二つの中項目から構成されており、「(1) 自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」では、生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて、「(2) 社会と文化に関わる諸課題と倫理」では、福祉、文化と宗教、平和などについて、それぞれの倫理的課題を設定、探究し、自分の考えを説明、論述できるようにすることが求められている。指導に当たっては、生徒や学校、地域の実態などに応じて課題を選択し、科目のまとめとして適切かつ十分な授業時間を確保する必要がある。

#### 4 政治・経済に関する質疑応答

問1 「政治・経済」の内容構成は、どのようになっているか。

「政治・経済」の内容構成は、次のとおりである。



問2 「B グローバル化する国際社会の諸課題」を取り扱う際、どのようなことに留意すればよいか。

この大項目は、二つの中項目から構成されている。「(1) 現代の国際政治・経済」では、国際社会の変遷、人権、国家主権、領土（領海、領空を含む。）などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献、貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解できるようにするとともに、現代の国際政治・経済に関わる諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、その過程や結果を適切に表現できるようにする。「(2) グローバル化する国際社会の諸課題の探究」では、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められるグローバル化する国際社会の諸課題を探究する活動を通して、自分の考えを説明、論述できるようにすることが求められている。

#### 5 新学習指導要領を踏まえた現行学習指導要領における実践

問いを設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせ、思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、ICTを活用して「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す実践例を示す。

# 実践事例①

## 消費者としての権利や責任を考察させる「現代社会」の取組

公民科の新しい必修科目「公共」では、大項目の「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」において、他者と協働しながら主題を追究したり解決したりする学習活動を行うこととしている。消費者教育については、「法」、「政治」、「経済」などに関わる主題として、「多様な契約及び消費者の権利と責任」で取り扱うとともに、家庭科との関連については、家庭科に属する各科目の内容のうち「消費行動における意思決定や契約の重要性」に関する部分との関連を図る必要がある。

ここでは、令和4（2022）年度からの成年年齢18歳へと引き下げられることを踏まえ、消費者としての権利や責任について考察することをねらいとした「現代社会」の実践例を示す。

### ◆単元の指導と計画の計画の例

単 元 名	現代経済の仕組みと特質		
単元の目標	経済活動の意義、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。		
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能
評価規準	知識・理解		
評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）参照のこと			

### ◆学習指導案の例

1 単 元 名  
現代経済の仕組みと特質

2 本時の目標  
(1) 不完全な意思表示に基づいて行われる場合は契約が無効になったり、これを取り消したりすることができることを理解させる。  
(2) 消費者基本法等を踏まえ、消費者の権利について考察させる。

3 本時の展開例（全21時間予定の11時間目）

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	○本時のねらい ○事例の紹介	○事例に関する教師の説明を聞く。	○本時の見通しをもたせる。 ○事例をモニターに映すことで、課題を共有する。
展開 (40分)	○契約とは何か <b>主体的な学び</b>	○契約について、どの時点で契約となるのかノートに記入する。 ○この事例の場合、契約は成立するのか。（個人思考）	○口約束といえども自己責任で約束したことは、例外を除き守る義務があることを確認する。
<b>【問い】消費に関するトラブルに遭遇してしまった場合、どのように対応すべきか。</b>			
	○問いの内容についてグループ協議 <b>対話的な学び</b>	○問いについて4名1組を基本としてグループ協議を行う。 <b>【協議の観点】</b> (1) クーリング・オフ等を含めた契約解除する方法はないのか。 (2) 解約料はかかるのか。 (3) クーリング・オフができないと言われたらどうすればよいのか。 ○各グループの発表	○「契約」により生ずる様々な ○国民生活センターや消費生活センターへ相談することができることを理解する。 ○中学校社会科公民的分野及び家庭科における既習事項を基にして考察するようにする。 ○未成年者は契約を取り消すことができることや悪徳商法の例を理解する。 ○クレジットカード利用に関して、多重債務や自己破産にも触れる。
まとめ (5分)	○現代の消費者問題の考察 <b>深い学び</b>	○グループ協議や各グループの発表を通して、成人となった際に留意すべき点について考察する。 ○貸し手及び借り手の自己責任の原則、契約の重要性について触れる。	○「契約」に係る責任の重さについて理解を深める。

○事例の概要  
・引越業者から「今なら、ウォーターサーバーが無料でレンタルできるキャンペーン中だ」と説明されたため「いいですね」と答えた。数日後、水の販売代理店から電話があり、電話口で「申込む」と言ってしまった。  
・後日、契約を解除したいと申し出たが、解約料の話はされていなかったにもかかわらず、解約料がかかると言われた。

＜ICTを活用した学習活動のポイント＞  
○国民生活センターのウェブページには、消費者から受けた相談事例と事例ごとの解決方法、問題点、注意点がまとめられている。  
国民生活センターウェブページアドレス「<http://www.kokusen.go.jp>」  
○消費者庁作成の消費者教育教材「社会への扉」には、授業で活用できるワークシートのほかに、学習指導案やプレゼンテーション教材等も掲載されている。  
消費者庁ウェブページアドレス「<http://www.caa.go.jp>」

## 実践事例②

# 「倫理」における先哲の思想との対話を通して 思索を深める学習の取組

公民科の新しい必修教科目「公共」で習得した選択・判断するための手掛かりとなる概念に加え、古今東西の幅広い知的蓄積を通してより深く思索するための概念や理論等を活用し、現代の倫理的な諸課題を協働して探究することが求められている。

ここでは、「公共」の考え方と共通する現行学習指導要領における実践事例として、仏教を題材とし、先哲を含む他者との対話を通して、思索を深めていくことをねらいとした「倫理」の実践例を示す。

### ◆単元の指導と評価の計画の例

単元名	人間としての自覚		
単元の目標	人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値に関わる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。		
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能 知識・理解
評価規準	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）参照のこと		

### ◆学習指導案の例

- 単元名  
人間としての自覚
- 本時の目標
  - 仏教が人間をどのように捉えているか、どう生きることを目指しているかについて、自己の課題と重ね合わせて考える。
  - 人間としてどう生きればよいのかについて思索を深める。
- 本時の展開（全18時間予定の11時間目）

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	○本時のねらい	○人生における不安や苦をワークシートにあげていく。	○生徒にとって身近に考えられることを導入とすることで、学習に対する意欲を喚起し、主体的な学習活動につなげる。
展開 (40分)	【問い】人生における不安や苦のなかで、人間としてどう生きればよいか		
	○仏教の基本的な用語の整理  ○問いについての考察 主體的な学び 対話的な学び	○仏教の基本的な用語を確認し、仏教が人間をどのように捉えているか理解する。  ○問いに対する答えを各自で考え、ワークシートに記入する。 ○ペアになり、相手の考えに対するコメントを相手のワークシートに記入する。	○仏陀の言行を取り上げ、仏教の考え方を簡潔に説明する。 ○自己の課題と重ね合わせて考察するよう促す。  ○仏陀の言行を参考にすることは、先哲との対話であることを説明する。 ○相手の考えを否定せず、良いと思った部分に焦点をあててコメントするよう促す。
まとめ (5分)	○共有 深い学び  ○本時の振り返り	○他の考えを、全体で共有する。  ○問いに対する自分の考えをまとめる。	○自分たちのペアでは出なかった意見をワークシートに記入させる。 ○多様な考えをもとに思索を深めることの大切さを伝える。

○この単元では、四諦や四法印などの仏陀の言行から仏教の考え方を理解し、自己の課題と重ね合わせながら人間の在り方生き方についてを探究する学習活動を展開する。

○自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したりしていく過程に留意する。

#### <ICTを活用した学習活動のポイント>

○ワークシートを事前に配付して講義部分を事前課題にしておく、電子黒板等のICTを活用して用語の確認や説明をするなど、限られた時間の中で探究活動を行う時間を確保できるよう工夫する。

○ICTを活用し、生徒のワークシートを直接電子黒板等に投影するなど、他者の感想や意見を基に自分の考えを広げ深められるよう工夫する。

#### <ワークシートを活用した学習活動のポイント>

○導入で「四苦八苦」について説明し、生徒自身が身近な不安や苦を考えさせ、学習に対する意欲を喚起する。

○必ずしも一つの正答があるとは限らない課題であることから、異なった意見をもつ人と議論をする力を身に付けるよう工夫する。

### ◆ワークシートの例

- 四苦八苦のうち、①不安や苦に感じることはどのようなことだろう。  
②不安や苦に感じることを書き出してみよう。

①チェックを入れよう	②具体例をあげてみよう
<input type="checkbox"/> 生 <input type="checkbox"/> 老 <input type="checkbox"/> 愛別離苦 <input type="checkbox"/> 怨憎会苦	
<input type="checkbox"/> 病 <input type="checkbox"/> 死 <input type="checkbox"/> 求不得苦 <input type="checkbox"/> 五蘊盛苦	

- 人生における不安や苦の中で、人間としてどう生きればよいだろう。

自分の意見を書こう	※ペアの人の意見(良い部分にコメントを)



## 実践事例③

「政治・経済」における「探究する活動」を取り入れた

「多様な働き方・生き方」の学習の取組

公民科の新しい必修科目「公共」で育まれた資質・能力を活用して社会の在り方を発展的に学習し、社会形成に向かう科目として新科目「政治・経済」が設定された。

大項目A「現代日本における政治・経済の諸課題」の「多様な働き方・生き方を可能にする社会」では、それぞれの事情に応じた多様な働き方・生き方を選択できる社会の在り方について、探究することが求められている。

こうしたことから、正解が一つに定まらない複雑な課題を把握し、課題を追究したり解決に向けて構想したりする学習へ取り組む必要がある。ここでは現行学習指導要領における実践事例を示すが、新科目「公共」、「政治・経済」においても取り組むことができる実践例を示す。

### ◆単元の指導と評価の計画の例

単 元 名	現代日本の政治や経済の諸課題			
単元の目標	少子高齢社会と社会保障、地域社会の変貌と住民生活、雇用と労働を巡る問題、産業構造の変化と中小企業、農業と食料問題などについて、政治と経済とを関連させて探究させる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）参照のこと			

### ◆学習指導案の例

1 単 元 名	現代日本の政治や経済の諸課題																						
2 本時の目標	雇用と労働問題に関して現実社会における複雑な課題を把握し、その解決策を他者と共に合意形成を図りながら構想することで、思考力・判断力・表現力等を育成する。																						
3 本時の展開（全6時間予定の2時間目）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>過程</th> <th>学習内容</th> <th>生徒の学習活動</th> <th>指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導入 (5分)</td> <td>○労働問題の把握</td> <td>○視聴覚教材（動画資料）を見て現実社会において、様々な労働問題（長時間労働やサービス残業）があることを把握する。</td> <td>○視聴前に見るポイントを必ず提示する。 (視聴時間を10分に区切る)</td> </tr> <tr> <td>展開 (40分)</td> <td>○課題の設定 主體的な学び</td> <td>○問いについて調べる内容と、何を使って調べるかをワークシートに記入する。 【課題の設定の例】 ・働くときの最低の条件 ・働く環境を適切に選ぶには ・最低賃金制度を考える ・正規雇用・非正規雇用とは ・過労死について考える</td> <td>○課題を設定し、情報を収集して整理分析する方法は「総合的な学習（探究）の時間」で身に付けた資質・能力を相互に関連付けて生かすこと。 ○インターネットだけでなく学校図書館等も活用し、多様な資料にあたるよう指示する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○課題の解決 対話的な学び</td> <td>○各グループで発表を行う。新たに学んだことや新たな疑問点や問題点を、ワークシートに記入する。</td> <td>○他者の意見も参考にし、対話的な学びとなるよう、配慮する。</td> </tr> <tr> <td>まとめ (5分)</td> <td>○振り返り 深い学び</td> <td>○発表で学んだ内容について、自分の将来とのつながりを考え、記入する。</td> <td>○労働保護立法や、生徒が将来困った時に労働相談ができる窓口について触れる。</td> </tr> </tbody> </table>			過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	導入 (5分)	○労働問題の把握	○視聴覚教材（動画資料）を見て現実社会において、様々な労働問題（長時間労働やサービス残業）があることを把握する。	○視聴前に見るポイントを必ず提示する。 (視聴時間を10分に区切る)	展開 (40分)	○課題の設定 主體的な学び	○問いについて調べる内容と、何を使って調べるかをワークシートに記入する。 【課題の設定の例】 ・働くときの最低の条件 ・働く環境を適切に選ぶには ・最低賃金制度を考える ・正規雇用・非正規雇用とは ・過労死について考える	○課題を設定し、情報を収集して整理分析する方法は「総合的な学習（探究）の時間」で身に付けた資質・能力を相互に関連付けて生かすこと。 ○インターネットだけでなく学校図書館等も活用し、多様な資料にあたるよう指示する。		○課題の解決 対話的な学び	○各グループで発表を行う。新たに学んだことや新たな疑問点や問題点を、ワークシートに記入する。	○他者の意見も参考にし、対話的な学びとなるよう、配慮する。	まとめ (5分)	○振り返り 深い学び	○発表で学んだ内容について、自分の将来とのつながりを考え、記入する。	○労働保護立法や、生徒が将来困った時に労働相談ができる窓口について触れる。
過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点																				
導入 (5分)	○労働問題の把握	○視聴覚教材（動画資料）を見て現実社会において、様々な労働問題（長時間労働やサービス残業）があることを把握する。	○視聴前に見るポイントを必ず提示する。 (視聴時間を10分に区切る)																				
展開 (40分)	○課題の設定 主體的な学び	○問いについて調べる内容と、何を使って調べるかをワークシートに記入する。 【課題の設定の例】 ・働くときの最低の条件 ・働く環境を適切に選ぶには ・最低賃金制度を考える ・正規雇用・非正規雇用とは ・過労死について考える	○課題を設定し、情報を収集して整理分析する方法は「総合的な学習（探究）の時間」で身に付けた資質・能力を相互に関連付けて生かすこと。 ○インターネットだけでなく学校図書館等も活用し、多様な資料にあたるよう指示する。																				
	○課題の解決 対話的な学び	○各グループで発表を行う。新たに学んだことや新たな疑問点や問題点を、ワークシートに記入する。	○他者の意見も参考にし、対話的な学びとなるよう、配慮する。																				
まとめ (5分)	○振り返り 深い学び	○発表で学んだ内容について、自分の将来とのつながりを考え、記入する。	○労働保護立法や、生徒が将来困った時に労働相談ができる窓口について触れる。																				

○社会とのつながりという観点から、社会で判断を迫られる、正解が一つに定まらない現実社会に見られる複雑な課題を把握していくよう、促すことが大切である。

<ICTを活用した学習活動のポイント>

○ICT、動画教材を活用することにより社会とのつながりを実感しやすく生徒にとっても社会問題を捉えやすくなる。  
○厚労省「『はたらく』へのトビラ～ワークルール20のモデル授業案～」があり、動画教材が紹介されている。  
○法務省「人権ビデオギャラリー」がある。法務局等において貸出しを行っている視聴覚教材（DVD）がある。

<ICTを活用した学習活動のポイント>

○課題解決の見通しをもって他者と探究し、探究の結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見出したりすることが大切である。

### ◆発展的な内容を目指した「深い学び」への「問い」の例

- 今後、AIが代替可能な仕事と、代替すべきではない仕事とは何か。
- どのようにワーク・ライフ・バランスを実現すべきだろうか。
- 女性や若年者、高齢者、障がい者の雇用についての課題は何だろうか。

# Topic

## 具体的な政治的事象を取り扱った

## 政治的教養を育む教育について

全ての教科等で生徒が有権者としての判断を適切に行うことができるように、公民科、各教科及び総合的な学習の時間において、話し合いや討論等を通じて生徒が自ら考えをまとめていくような学習活動を行うことが求められる。また、現実の具体的な政治的事象を取り上げるとともに、模擬選挙や模擬議会など具体的・実践的な活動を学校現場に取り入れることが求められる。このことを踏まえ、「正解が一つに定まらない問いに取り組む学び」、「学習したことを活用して解決策を考える学び」、「他者との対話や議論により、考えを深めていく学び」に取り組むことによって、公民として必要とされているこれらの「学び」ごとに実践例を示す。

### ◆政策討論会を通じた「正解が一つに定まらない問いに取り組む学び」の実践例

地域課題に主体的に取り組んでいくことの大切さを学ぶことをねらいとして、「政策討論会」を実施する。実施に当たっては、事前に地域ならではのテーマを設定して課題を整理し、「地域課題の把握」と「解決策の提案」を討論を通して深い学びにつなげることが大切である。

#### 【(例) 地域課題と解決策の提案】

テーマ1：「地域産業の活性化」

- (1) 内容：伝統工芸で外国人観光客をひきつける。
- (2) 期限：●年●月～●年●月
- (3) 目標：外国人観光客を毎年10%アップ
- (4) 予算：2億円
- (5) 財源：伝統工芸への補助金を統廃合し、財源を捻出
- (6) 手段  
ア 伝統工芸の「切り子細工」、「風鈴づくり」などの職人を、各イベントに派遣し、実演販売を行う。  
イ 「〇〇祭」に職人を全員招待し、そこで技を競ってもらおうと同時に製作した作品のセリを行う。

### ◆選挙啓発運動を通じた「学習したことを活用して解決策を考える学び」の実践例

「主権者としての政治に対する関心を高めること」については、若い世代の投票率がこれまでの選挙において、他の世代に比べて低く、その差が拡大してきていることから、若い世代に主権者としての政治参加の在り方を考察させることが大切である。

#### 【(例) 放送局による選挙啓発校内放送の実践】

＜投票を呼びかけるため、生徒会と選挙管理委員会とが連携して作成した校内放送の原稿＞

●月●日(●)は、第●回参議院議員通常選挙の投票日です。

今回の選挙は、令和という新しい元号のもとで行われる初めての国政選挙であり、新たな時代を託すべき私たちの代表を決める重要な意義をもつものとなります。

近年の選挙においては、若年層の投票率が低い状態が続いていますが、投票参加は自らの意見を国政に届ける大切な機会です。

選挙公報やテレビ・ラジオでの政見放送、インターネットの利用など、様々な機会を通じて得られる候補者や政党等の政策をよく見極め、積極的に投票しましょう。

また、学業や部活などで投票日当日に投票に行けなくても、期日前投票や不在者投票の制度がありますので、大いに活用しましょう。

### ◆議員との意見交換を通じた「他者との対話や議論により、考えを深めていく学び」の実践例

他者との対話や議論をすることにより、自己の考えを深めていく学習活動を通して、多様な価値観をもつ他者と協働しながら課題解決に取り組むことができる市民の育成につながる。

#### 【実践例】 「市議会議員との意見交換会」に係る実施要項

- 1 ねらい  
議員との意見交換を通じて、身近な地域を理解し、その課題を多面的・多角的に考察し、自分の問題として捉え、主権者として自ら判断し、行動できる資質や能力養うとともに、地域住民として社会に参画する意識をもたせる。
- 2 日時  
令和●年●月●日(●)  
3年A組：1時間目、3年B組：2時間目 3年C組：3時間目
- 3 意見交換テーマ  
3年A組：「若者に対するUターンへの後押しに何が必要か」  
3年B組：「我が町は道内でゴミの排出量が多い地域だが、みんなの努力でゴミを減らすことはできるか」  
3年C組：「若者が楽しく住みやすい町とは、どのような町か」
- 4 参加形態  
市議会議員16名が参加、各クラス7～8グループに分かれ、そのグループに市議会議員が2名以上入り意見交換を行う。



市議会議員と生徒でグループを設定し、あらかじめ設定したテーマについて、KJ法を用いて考えを深める。



意見交換の結果は、グループごとに市議会議員の協力を得ながら生徒が発表します。また、質問を想定しておくことも思考を深めるポイントとなる。